



第1回署名活動の様子

第2回署名活動後に高校生らと記念撮影

街頭募金 署名活動始まる!

十坪住宅保存から
世界遺産登録へ弾みを

第33号

ゆい・結・YUI

ハンセンボランティア ニュース

2016年9月15日 発行
ゆいの会事務局
岡山市北区弓之町1-17 五藤ビル4階
山本勝敏法律事務所内
電話 (086) 234-1711
FAX (086) 234-8696
編集 則武 透



十坪住宅修復保存運動

当会は、国立療養所長島愛生園にわずかに残る戦前に建築された「十坪住宅」の修復保存のため、岡山市内での街頭署名・募金活動を含めた街頭行動を行ってきました。この間、当会は、「岡山県ハンセン病問題対策協議会」（会長：平松正臣関西福祉大学教授）や、岡山県や瀬戸内市も参加している「ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会・岡山」（会長：武久顕也瀬戸内市長）においても、「十坪住宅修復保存運動」の趣旨を説明し、地方公共団体をはじめとする関係団体への理解も求めてきましたが、改めて、戦前に行われた「十坪住宅運動」について振り返りつつ、当会が取り組んでいる「十坪住宅修復保存」運動の意義について簡単に述べます。

長島愛生園では開設後4か月経過した1931年3月時点で、収容患者が定員の400名を超過し、以後、定員超過の状態が続きました。こうした中、より多くの患者を隔離するために光田健輔園長が考案したのが十坪住宅建設計画でした。これは、広く国民から寄付金を募り、患者作業により一棟400円（1933年より500円、1936年には600円へ修正）の予算で6畳2間の十坪住宅を建設し、これを国庫に寄付する形で定員を超過した入園患者の住居にあて、一棟に4～8名の患者を収容するというものであり、竣工した住宅には、それぞれ寄付者にふさわしい名称も付けられました。

「十坪住宅」運動の進展を背景にして無癪県運動も活発化し、「無癪県運動」の記録が残る鳥取県を例にとると、1936年に、鳥取県癪予防協会が発足し、発起人には、知事以下、県警察部長、県経済部長、県総務部長、県衛生課長、県学事課長などが名を連ね、昭和12年5月末日現在の十坪住宅への寄付金総額約129,469.63円のうち、鳥取県では約28,163.03円を集めました（このうち、財団法人鳥取県癪予防協会（会頭：鳥取県知事）の寄付金額が27,960円）【長島愛生園慰安会編『十坪住宅』第6版（1937）】。

このような十坪住宅運動の進展は、官民一体で行われた「無癪県運動」にも大きな影響を与え、患者の人権など無視した絶対隔離のみを目的とする運動を強力に支えてきたという歴史的背景を考えたとき、十坪住宅の修復保存の意義は極めて大きいと考えています。しかし、この運動は十坪住宅の保存にとどまらず、ハンセン病療養所の永久保存や長島愛生園が中心となり提唱している世界遺産登録運動とも繋がっていくものと考えています。

（平成28年9月 会長 近藤 剛）

＊平成28年度「ゆいの会」総会のご報告＊

本年4月10日(日)午前10時から約3時間、長島愛生園で、参加者26名、委任状52名による「ゆいの会」総会を開催し、平成27年度活動報告、決算報告、監査報告、平成28年度活動方針、人事、予算が承認された。

総会后、研修「十坪住宅修復保存に向けて」を行い、ハンセン病療養所の施設保存について、①ハンセン病問題基本法18条が国に対して歴史的建造物の保存等の啓発に必要な措置を講じる義務を定めており、②厚生労働省歴史的建造物保存作業部会が開催されたが、建築史的意義を重視して歴史を語り継ぐ視点がないため、十坪住宅などは非該当となった、③全療協が統一要求書を提出して建造物の永久保存を要求し、厚労省は検討を約束し各療養所にヒアリングを行ったが今日に至るも基本方針が示されていない、④厚労省が今後3年間で緊急保存修復施設としてリストアップしたのは、愛生園では回春寮のみである、⑤厚労省任せでは進展しないばかりか、1園1施設を残すことで終了となる危険があるため、ゆいの会として十坪住宅修復保存運動を推進することによって、厚労省に働きかけて基本法に基づく療養所施設全体の保存につなげたいなどの報告・質疑が行われた。

十坪住宅修復保存に協力頂いている建築士グループからは、療養所という居住空間を復元する意味では牛舎、診療所、学校などにも調査を広げる必要性が指摘され、同じく協力頂いている東京大学大月研究室からは、愛生園に残された資料から隔離政策による収容者増と十坪住宅との間に相関関係が認められることが指摘された。

十坪住宅修復保存運動から世界遺産登録運動にどのようにつなげていくのか模索段階であるが、ともかく、ゆいの会として十坪住宅修復保存に向けた署名・募金活動に取り組むことが確認された意義ある総会であった。総会后、新良田教室跡地でお花見会を行い、その後、有志で5月21日実施の長島ウォーキングでめぐる史跡を探索し、ツツジやサツキ越しに美しい風景を楽しんだ。

(事務局長 山本 勝 敏)



お花見会での記念撮影

ハンセンボランティアニュース

結・ゆい・Yui 第33号

目次

1. 十坪住宅修復保存運動	1
2. ゆいの会平成28年度総会報告	2
3. ボランティア参加報告	3
① 歴史館ボランティア	4
② 文芸ボランティア	
③ ふれあいボランティア	
④ 夏祭りボランティア	
4. 第15回ハンセンボランティア養成講座	5
第15期生11名が誕生	6
5. 十坪住宅保存活動のキーマンに聞く！	
島村建築士インタビュー	7
6. 連載企画「世界遺産登録するならこの遺跡！」	8
第3回 大島青松園「キリスト教霊光会教会堂」	9
7. 街頭署名・募金活動の報告	10
長島ウォーキングの報告	11
8. 田村さんの「歴史館だより」	12
今後の企画案内	
編集後記	



ボランティア活動報告

ゆいの会では、さまざまなボランティアが行われています。そのうちのいくつかをご紹介します。

◆歴史館ボランティアデビュー

今年度、ボランティア養成講座を受講し、ゆいの会の15期生として登録させていただいた山上と申します。受講後間もない7月19日、僭越ながらさっそく歴史館ボランティアとしてデビューさせていただきました。

当日は岡山県人権施策推進課の56名の団体様をご案内、グループを2つに分け、館内見学・フィールドワークの行程を先輩ボランティアと私でそれぞれ受け持ち、最後に2グループ全体で語り部の方の講演を聴講しました。今回、時間配分、当日の話の進め方等、私自身大変勉強させていただき、今後の活動に向けてさらに想いを強くすることができました。

ハンセン病問題という私たちが決して風化させてはいけない人類の重い歴史を、今後も一人でも多くの人に伝えていくために、これからも自分のできる範囲で、謙虚にこの問題に向き合

い、ゆいの会の活動に携わっていかねばと考えています。誤りを繰り返さないために、人類が歴史から学ぶ意義は大きいと私は信じています。

（15期生 山上明人）

◆歴史館ボランティアに参加して

8月28日（日）午前10時15分、大阪府河内長野市立長野小学校の12名の先生方が、歴史館及び歴史回廊の見学のため来訪されました。

対応は、15期の山上及び大塚が行いました。2人とも、今年6月にゆいの会の養成講座を受けた、初心者マークですので、先生方を相手に説明ができるか心配でした。しかし、山上さんは、すでに1回経験済みで、驚くほどスムーズに説明され、時間どおり対応できました。

ハンセン病の歴史、ハンセン病の症状等を説明し、長島愛生園の俯瞰模型を眺め、展示資料を読んで、説明を聞くと、こんな惨いことが、のどかな小島で行われていたこと、教育界がそれを阻止できなかったことに、強い

ショックを受けられたみたいです。

参加された先生方は、この日本で、人権を無視し、幼い子供たちを親から強制的に引き離し、死ぬまで隔離ということを平然と行ってきた歴史をかみしめ、明日からの教壇に立つと述べられたのが、印象的でした。

（15期生 大塚元一）

◆文芸ボランティア活動報告

ゆいの会のみなさんこんにちは。文芸ボランティアを紹介します。3年前から月1回歴史館において男女各2名で活動しています。リーダーの情熱に引かれながらの地道な作業です。当日は近況、興味のある本の紹介、面



白かった映画の話、ハンセン病問題に関する新聞やテレビ番組など話しながらのコーヒータイム、前回の作業を徐々に思い出しています。その後作業に入ります。今まで2年間詩誌を整理し、データ化しました。817冊・100種類。入園者の方々の交流の広さが伺えました。今年からは詩人であり、思想家である入園者の故島田等さんの交流と業績を整理しています。島田倉庫から移した段ボール30箱の資料の内、島田等編集全国紙「らい」誌全25巻の整理、島田等の交流範囲を知るため書簡の整理を始めています。年賀状を年ごとにホルダーに区分け10冊以上ありました。今月からはこの葉書と「らい」誌送付お礼、感想の葉書の整理・・・そこには何が判明するのでしょうか？

島田等さんの資料に触れてみたい方々、ご参加をお待ちしています。

（12期生 金平洋子）



◆ふれあいボランティア活動報告

今年からふれあいボランティアにも参加して、土曜日の病室訪問に申し込みました。初日はかなり不安でしたが、一緒に参加した志賀さんに色々教えて頂き、無事病棟へ。訪問予定の方々の体調が悪く、急きょ他の方とデイルームでカフェとおしゃべりへ。本や研修で聞く以上に、大変な経験をされたご本人からの言葉は身にしみるものがありました。

2回目の病室訪問では、まもなく退院を迎えられる方々と話をすることができました。どんな話題が良いのかわかりませんが、社会の出来事に始まり、「ゆいの会の皆さんの活動も園内放送で聞いてますよ」との言葉に励まされたりと楽しい時間を過ごすことができました。退院後は一般舎には戻らずセンターへ入られる方から、「庭の花を好きだけ持つて行って良いよ」と言われ庭にお邪魔したところ、入院中に雑草が伸びてはいたものの、きれいにされていることが伺える庭に癒やされました。皆さんも是非、入所者の方と素敵な時間を過ごして参加してみてください。



（13期生 塚田明広）

◆長島愛生園夏祭り

13期生の遠藤です。7月28日に、長島愛生園で行われた夏祭りの日、歴史館ボランティアに参加させていただきました。

ゆいの会のボランティア養成講座を受けてから、もう2年になります。なかなかボランティアに参加することができずにいました。夏祭りに参加するのも初めてです。

当日は一般開放ということで、家族連れの方、この機会にとわざわざ足を運んでくれた方、私が思っていた以上にたくさんの方が歴史館に来館されました。私の、不慣れな案内にも熱心に耳を傾けてくださった来館者の方々に心より感謝です。来館された方の中に、もう50年近くも前にこの長島で歌舞伎をご覧になったことがあるという方がおられました。以前、この長島で歌舞伎をしていたことすら知らずにいた私です。逆に、勉強させられました。

歴史館ボランティアの後はお目当ての花



火大会です。こんなにも多くの人が、この島を訪れるのはこのお祭りの日だけでしょうか。永くこの島から出ることが許されなかった入所者の方々は、この光景をどう感じているのでしょうか。このお祭りがまた、ハンセン病問題の正しい知識を広めるきっかけになることを祈って、また来年もぜひ参加したいと思っています。

（13期生 遠藤陽子）

◆邑久光明園の夏祭りに参加して

暑さ厳しい8月2日、邑久光明園の夏祭りボランティアに参加しました。

最初に梅干の種抜き。次にごはんにふりかけを混ぜながら、器におにぎり1個分ずつのご飯を盛り続けました。ゆいの会の先輩方や大学生の方々と両園の昔話や郷土料理等の話を伺いながら、400個のおにぎりが出来上がり、2個+沢庵2枚の200パックを作り上げました。

夕刻からの夏祭りのわた菓子コーナーではアシスタント？として、作る子供をほめたり、集金等のお手伝い。



（15期生 高原和子）

わた菓子を作る楽しさを100円で味わえるからか、子供達+若い親達の列がずっと続きました。花火が始まると、近くの通路にいらつした車いすの入所者の方が神戸から身内か知人が来園されていると嬉しそうに話してくれました。花火を眺めながら、片付けのお手伝い。今回は入所者の方々と交流よりも、広場いっぱいの子供達や若いファミリーに接することがほとんどでした。兄弟の数が多い家族が多いことに驚きました。未来への希望あふれるたくさんの子供達が園を訪れることは、目的が夏祭りでも、大変有意義だと思います。私自身元氣・エネルギーをもらいました。

今回、参加出来たのも、北村さん北川さんに送迎していただけたからです。

当日一緒に下さった皆様、どうもありがとうございました。

第15回ハンセンボランティア養成講座を開催 《15期生11名が誕生》

第15回ハンセンボランティア養成講座が今年6月、開催されました。各講座の主な感想をご紹介しますとともに、受講された大塚元一さんに寄稿いただきましたので、掲載します。

第15回ハンセンボランティア養成講座

テーマ・講師（敬称略）

【講座Ⅰ】 6月11日（土）

○開会挨拶 ゆいの会会長 近藤 剛

①「ハンセン病とは」

講師／長島愛生園園長 山本 典良

②「ハンセン病の歴史について」

講師／ゆいの会会長 近藤 剛

③「ボランティアを始める前に」

講師／関西福祉大学社会福祉学部 萬代由希子

【講座Ⅱ】 6月18日（土）

④歴史館見学、園内フィールドワーク（十坪住宅を含む）

案内役／ゆいの会会員

⑤「介護講座」及び「介護実践」（車いす・アイマスク体験）

講師／長島愛生園看護部

【講座Ⅲ】 6月25日（土）

⑥「入所者との交流」

講師／長島愛生園自治会長 中尾 伸治

⑦ゆいの会オリエンテーション

⑧「十坪住宅保存活動について」

講師／ゆいの会会員、建築士ほか

⑨ 講座修了式、修了者との交流会

【講座Ⅰの感想】

・医学的見地から詳しく説明していただき興味深かったです。
・もっと深く知りたいと思いました。歴史を知ることが自分の責任を考えるためにもとても大事だと思います。
・グループワークで色々な意見を聞いて勉強になりました。今後のボランティア活動のための心の準備ができました。

【講座Ⅱの感想】

・桧橋でこれから入所の少女の写真がありました。少女の気持ち、親の気持ちを考えるとぐっとくるものがありました。
・歴史館は何回も見学させていただいているのですが、来るたびに新しい学びがあります。
・初めて目隠しをしたことで、こんなに怖い感覚に陥るのだなと思いました。

【講座Ⅲの感想】

・中尾会長のお話を聞き、改めて無関心であることは罪だなと感じました。
・知識として知っていることでも、それを直接体験された人の口から話されることで受ける印象は全く異なるのだと感じました。
・住宅保存活動についてできるだけ多くの方々から署名をしていただこうと思います。



安心して外に出る勇気と安全の手助けができるようになります。





13期生の塚田明広さん



実践報告する14期生の松下誠司さん



毎年恒例の、藤ひろさんからのばらずし差し入れ



ゆいの会養成講座に参加して

ゆいの会の存在及び6月に養成講座が開設されることは、かなり前から知っておりました。

両親の実家のある高松市の近郊の海上に、大島青松園というハンセン病療養所があり、幼少の頃から、この病の存在を承知していました。「小島の春」とか市販の関連書籍も、目に触れれば読んでおりました。

遠方に住んでいたため、講座に参加できませんでしたが、年金生活になり、広島県廿日市市という、岡山県の隣県に引っ越したため、念願のゆいの会への参加を決め、講座を受講しました。

初日、山本愛生園園長及び近藤ゆいの会会長の講義で、ハンセン病そのもの、すさまじい歴史を話され、萬代講師からボランティア関係の話がありました。2回目、3回目は愛生園での研修で、ついに園内に一步踏み入れました。想像以上に明るく、対岸に小豆島がせまるリゾート地の風情でした。園内の施設で、看護師さんたちの指導のもと、視覚障害の入所者への誘導、車いすの操作など、介護実践研修によりいよいよボランティアに参加するのだという自覚を持ちました。

広島という遠方からの参加ですが、他に大阪府八尾市、西宮市、明石市等遠方からの参加の方もおられ、刺激を受けましたので、高齢者ですが、入所者の方々に喜んでいただけるよう活動すると誓った次第です。

(15期生 大塚元一)



十坪住宅保存活動のキーマンに聞く！

―島村建築士インタビュー―

ゆいの会が進めている、十坪住宅修復保存活動では、シママムラ建築工房の島村鐵二建築士にお世話になっております。島村建築士に、これまでの調査を振り返っていただくとともに、今後の課題についてご指摘いただきました。

（運営委員 正田邦男）

●ハンセンボランティア「ゆいの会」が、ハンセン病療養所の世界遺産登録

を実現させる為に、どうしたら良いの
だろうかという問題意識から「鞆の
浦」の景観保存運動の現地調査に行っ
たことから、強制隔離政策時代の生活
を伝える「十坪住宅」の保存・修復し
ようというところから始まりましたが、
長島の「十坪住宅」に出会うまで、ど
んなことをされていましたか？

古民家を再生する仕事をするのがよ
くありました。東区瀬戸町の南雲邸・
夢想庵（2006年）、倉敷市の大橋家
の改修と活用。それから詩人・永瀬清子
生家の修復保存の仕事を2005年から
お手伝いして、井戸の修復を2008年
に、母屋の修復工事を2011年に完了
しました。井戸と母屋を「登録有形文化
財」として申請中です。また、瀬戸内国
際芸術祭で、犬島「家プロジェクト」C
邸などの構造担当（2012年）をし

した。現在、岡山理大専門学校で講師を
しています。

●「十坪住宅」の調査に入られて、最初
に感じられたことは、なんですか？

2015年の夏、「ゆいの会」の友
人から、相談の電話を受けました。ハ
ンセン病療養所の長島愛生園に戦前か
ら患者を強制隔離した十坪住宅が5棟
残っているの、調査をしてくれない
だろうか、ということでした。

私は、乗り気でしたが、たまたまそ
のとき我が家は修理の最中で、たく
さんの職人さんがいて、お茶を出しな
がらこの話しをすると、大工（遠藤建
工）さんは一言、「長島愛生園に十
坪住宅。それはすぐ行ったほうがい
い。」、左官さんも、同じことを言
いました。

そして、その年の8月7日にはじめ
て、「ゆいの会」の案内で長島愛生園

に行きました。とても暑い日で、その
上建物はみな急な坂道にありました。
現地では自治会長の中尾さんが案内し
てくれました。

「療養所」というのは、長屋みたい
な建物かと想像していましたが、新し
いものは確かにそうだったのですが、
古いものは違って、十坪のシンブル
な木造一戸建てでした。昭和8年か
ら建てられはじめ、約150棟が建て
られたという話。最初見た2棟は、屋
根の一部が落ち、床も抜けている状態
でした。「梅ヶ香」と「第四千代田」
という名でした。「母の家」という建
物は最近までカルテ倉庫に使われてい
て、雨漏りはありませんでした。その
家は、大幅に増築されていました。も
ともと2軒長屋と推測されました。一
番奥の小高いところにある「路太利」
という建物は、十坪の形と外装がその
まま残っていました。これだけは10畳



1間が真ん
中にあるめ
ずらしい間
取りでし
た。あとの
1棟「第二
兵庫」は、
居住者がお
り、中には
入れません
でした。昭
和の最小限

住宅がよくぞ残っていたというのが第
一印象でした。

●その後、月に1回の現場の調査から思
われたことは、なんですか？

愛生園に残っている十坪住宅。これ
も普通の文化財からすれば適用外のも
のでしょう。ところが、ハンセン病差
別の極限で人々が生き抜いた場所、そ
ののための工夫を住人たちが盛り込んで
いった住みかであると考えたと、これ
は貴重な建築史的な遺産です。

入所者の人が、必死の思いで増築して
いった「十坪住宅」。もしかすると、こ
ういうものを神品（神のような、気高い
品位があり、すぐれた作品）と言うのか
もしれないと思うようになりました。

世界遺産に向けての十坪住宅を保存
すると考えるのであれば、「今、残っ
ている5棟すべてを保存する。」とい
う目標を掲げるべきだと思います。ま
た、保存は現地保存が原則です。

また、「建築遺産」としての保存と
いうことになれば、「だいたい元通
り」レベルのレプリカであってはいけ
ません。「真正性」が求められます。
そうでなければ品格はできません。

註：この「真正性」とは、主に文化遺産に
求められる概念で、建造物や景観などが
それぞれの文化的背景の独自性や伝統を
継承していることを求められる概念で
す。修復の際には特に、創建時の素材や
工法、構造などが可能な限り保たれてい
る必要があります。

●東京大学「建築計画学」の大月敏雄教授と研究室の院生が昨年の11月19日から20日にかけて現地調査を行ない、その後今年の6月12日に学習会がありました。その後、どのような経緯で大月研究室との繋がりができましたか？そこから考えたことはなんですか？

最初に長島を訪れた時に、たくさん十坪住宅に関するデータを渡されました。十坪住宅の建設時の記録、写真などでした。その夜、たまたま別の件で打ち合わせにみえた「コロナエ設計事務所」の片岡八重子さんがこのデータを見ました。協力者が欲しいという私に、彼女は自分も協力するが、「恩師が興味を持っているから、乗り出さるう」と言い、すべてのデータをコピーにとり、その日のうちに東大の大月教授のところへ送りました。そして、ほどなくスケジュールをたてて、長島に調査に行きたいという連絡がありました。

その後、11月に院生の石川堯子さんと現地調査に来たときの大月教授の指摘は、次のようでした。崩壊寸前の「梅ヶ香」「第4千代田」も測量をしたほうがよい。そして、雨漏りがしている「路太利」も含めて、3棟についてはシート掛けをして保護をすることが急務。また、十坪住宅だけでなく、入所者たちが生活している圏内の重要な建造物、牛舎や診療所、新良田教室などの保存のための測量を早急にする

必要があるということでした。

その後、雨漏りがしている3棟のシート掛けの工事を今年の梅雨が始まる前までに終わらせようと、大工(遠藤建工)さんをお願いし、完了しました。これで3年は大丈夫です。

この後、今年の6月12日に建築グループと学習会を持ちました。そこでは、院生の石川さんからの調査報告があり、大月教授が「建築計画学」の問題意識を述べました。大月敏雄教授は、関東大震災のあと建てられた同潤会アパートの変遷の調査、炭鉱閉山後の炭鉱住宅の変遷を追跡し、また大きな災害の被害とその後の仮設住宅、復興の過程についての調査、提言しています。それは、東日本大震災、広島のと土砂災害、十津川の洪水などです。



大月教授は今和次郎の日本の民家にふれ、「遠州御前崎の砂丘の村の家」(『日本の民家』、岩波文庫P213)のスケッチを紹介しました。そこには克明な民家数棟の絵に加えて、砂丘、畑、砂防林、海、対岸の伊豆半島、富士山が描かれています。

建築、環境、生活、生業などを一体として捉えていく「建築計画学」の一例と思いました。

私は、このような問題意識を、長島の「十坪住宅」に持ち込んだら、どうなるのかを、建築の人たちと考えたいと思いました。この視点は、これからの活動の基点となるのではないかと思います。

●歴史的建造物や遺跡等の保存について、「登録有形文化財」や「史跡」などの制度を活用していく方向などが議論されていますが、これからの調査をどのように考えていますか？

現在までの調査は間取りと外観の概略が出来たところです。具体的には、4棟の縮尺「1/100」の平面図、「1/50」の立面図をそろえたところからです。

保存・修復のためにはもう一段詳しい調査が必要になります。最初に寄付があつて大工さん達が建てた原型としての十坪住宅があります。その後、入所者や職人さん達の手で増築されているのが現状です。創建時の姿に戻して

保存するだけでなく、現状つまり増築された状態で保存する方法も検討すべきだと思います。これは、保存修復後の完成形をどう描くかという問題です。調査と修復は、表裏一体でかつたえず討論しながら進める必要があると思っています。

いずれにしても、保存修復のためにはもう一段詳しい調査が必要です。正確な「矩計図(かなばかりず)」「(断面図の詳細版)と構造体の「小屋伏図(こやふせず)」「(屋根の構造図)、建具の位置、材寸など「1/20」程度の図面がいります。それと外装、内装の材料、寸法などの記録も必要です。まだまだやることは多くあります。



連載
企画

「世界遺産登録するならこの遺跡！」

第3回 大島青松園「キリスト教霊光会教会堂」

霊光会は、1914年11月11日に、「愛の人」「祈りの人」「徳の人」と言われた、三宅官之治（かんのじ）ら5名によって創立されました。キリスト教霊交会教会信徒のためにあるこの教会堂は、1935年の竣工で、米国のミッション団体から寄付金を元に、宣教師であり、建築家でもあったW・M・ヴォーリズ（1880～1964）の設計です。その後、1964年に好善社の協力で改修されました。

切妻屋根の角度が美しく、品があります。妻面には十字架のレリーフが付けられ、100年の歳月を醸し出しています。心が何かによって洗われる感じですが、また外側の窓の配置、階層になった窓の組合せ、玄関入り口にある鐘楼もデザイン的に何かを伝えています。木造平屋建て。



2014年11月11日に、霊光会創立100周年記念行事を行いました。その時の会員数は6名です。100年の歩み中で教会に属した昇天者は182名。創立から1996年までの82年間、毎日祈禱会を続けた歴史を振り返りました。礼拝では、賛美歌90番「ここの神の、み国なれば」がよく歌われています。「ここのかみのみくになれば、あめつち御歌をうたいかわし、岩に樹々に空に海に、たえなる御業ぞあらわれたる・・・」。ここを、神の場所と思った人々がいたのです。

復刻された竣工当時の内部の絵葉書は、写真のようです。内部はいたってシンプルです。天井の小屋組みはかなり特殊で、ハンマービームのような両側の垂木を水平に張られたワイヤーで引っ張っています。その空間の広がり意識の外側と交信するような感じであり、またその意識がしっかりしたもので守られています。

元教会代表の故・曾我野一美さんは、「療養所の中の教会というものは、そもそも有限の存在であって、入所者が居なくなれば、その時点で教会生活は終わる。そういう約束の上に成り立っている教会であり・・・」と述べています。いよいよ教会としての終末に向けようとしています。この建物はその信仰の記録を留めようとしています。

☆メーリングリストのご案内☆

皆様の情報交換のために、メーリングリストを設けています。ぜひご参加下さい。

ご参加希望の方は、ゆいの会事務局までご連絡ください。

（連絡先は1面に記載されております。）

ゆいの会ブログ（ときどき更新中！）

当会の活動のほか、ハンセン病問題に関する最新の情報も随時掲載しています。

<http://hansenvolunteer.blog.shinobi.jp/>

十坪住宅保存 修復に向けた街頭募金

署名活動実施!

この間、6月11日、8月26日の2回にわたり、JR岡山駅東西連絡通路(運動公園口側)において、十坪住宅保存・修復に向けた街頭募金・署名集めを実施しました。

第1回目の6月11日は、ゆいの会会員、建築士有志に加え、岡山朝日高校JRC部員の皆さんも参加し、総勢約30名による大規模な街頭宣伝となりました。朝日高校の生徒の皆さんの「十坪住宅の署名、募金に御協力お願いしますーすー」との若く明るい声での呼びかけに多くの通行人が振り返り、中には高校生のグループが向こうから率先して署名や募金に応じてくれるなど、大成功でした。また、邑久光明園のゆるキャラ「こみよたん」は、ちびっ子たちに大人気でした。たった1時間の活動でしたが、150筆の署名、2万8964円の募金が集まりました。

第2回目の8月27日は、第1回目のメンバーに加え、山陽女子中放送部の皆さんも参加し、さらに華やかな街頭宣伝活動となりました。ハンドマイクでの呼びかけを山陽女子中学の生徒さ



募金活動を行う、朝日高校JRC部長の岡紀宏さん(右)

んに担当してもらいましたが、流石に放送部で鍛えられたプロのアナウンサーのような流ちょうで聴き取りやすい呼びかけで、多くの通行人の方が振り返っていました。第2回も短時間で、136筆の署名、1万3324円の募金が集まりました。今後とも、是非、街頭募金・署名活動を継続していきたいと感じました。

(運営委員 則武 透)

以下は、活動に参加された朝日高校JRC部長の岡紀宏さん(朝日高校2年生)へのインタビューです。

Q JRCとは何の略ですか?

A 「Junior」「Red」「Cross」ジュニア・レッド・クロスの略です。翻訳すれば「青少年赤十字」です。

Q 朝日高校JRC部はどの位の歴史があるのですか?

A 昭和26年7月創部と聞いています。

Q 最近ではどのような活動をされましたか?

A 今年4月には岡山駅や校内で熊本震災の募金活動を実施しました。

Q 十坪住宅保存の話を聞かれてどのように感じましたか?

A このままハンセン病問題の歴史を知る建物が失われるのは残念なことです。是非、私たち高校生の様にハンセン病問題の歴史を知らない者でも人権学習が出来る場として、建物を保存して欲しいと思います。

Q 今後の抱負を聞かせて下さい。

A もっと私たち若い世代の者がハンセン病問題を学習しなければならぬと感じました。今後とも、出来る限り、十坪住宅の募金・署名活動にも協力していきたいです。

市民とともに 「歴史」を学ぶ

2016年5月21日、初めての市民参加企画として、「長島愛生園史跡めぐりウォーキング」を行いました。長島愛生園には、今なお「人権侵害」の歴史が刻まれている史跡がのこされています。園内に残る14の史跡をめぐり、それらの歴史と教訓を学び、世界遺産登録運動への理解を深める目的で開催されました。

当日の参加者は38名、うち「ゆいの会」会員は12名でした。70代から小学生まで幅広い年代の方の参加で、初めて愛生園を訪れる方も含め、多くの市民が参加されました。また、ウォーキングの安全を確保するため、「倉敷ハイキング倶楽部」の方のご協力を頂きました。



午前9時30分、「倉敷ハイキング倶楽部」の方の、指導で準備体操を行い、元気に出発しました。当日は晴天で高温も予想されましたが、思いのほか島の風は爽やかで、所要時間2時間30分のコースを参加者全員、事故もなく完歩しました。それぞれの史跡で、日頃歴史館ボランティアを担っている、ゆいの会の会員の詳しい説明があり、わかりやすかったと好評でした。邑久高校新良田教室跡では、新良田教室で教員をされていた、横田廣太郎先生から当時の様子を説明していただき、残された建物と、校庭のたたずまいの中で、参加者は熱心に聞き入っておられました。

昼食をはさみ、午後1時から入所者の中尾伸治さんのお話をききました。淡々とした語りの中に、悲しみと怒りが込められているお話だったとの感想が寄せられ、直接入所者の方の話を聞くことの大切さを感じました。

今回は、誰でも参加できるようにと、「島をめぐるウォーキング」を企画しましたが、おおむね好評で、次回への期待の声をも寄せられています。

(運営委員 志賀雅子)



【参加者の感想】

・初めて愛生園の中を歩いて説明を聞かせていただいて、理解が深まりました。入園者の声とか、報道の中での話などよかったです。

・以前から一度は来たかった「愛生園」にやっと来ることができ大変ありがたく満足しました。入所者のつらい

歴史を具体的に知ることができ、自身の身と置き換えて考えてみても自分の恵まれた生活に感謝し、入所者の方々の苦勞に涙がでる思いを何度もしました。是非この施設を後世に残していただきたいです。

・子どもと一緒に参加できてよかったです。実際に目でみて足で歩いて入

所者の方の想いを重ねる行為も大切です。良い企画をありがとうございます。

・今回のように「誰でも参加可能」という企画にぜひ所属団体等とは関係ない同世代の友人を誘いたいと思っています。今回は残念ながら誰もつれてくることができず・・・次回以降、「誰でも参加できる企画があればまた誘いたいです。」

・秋頃にまた、新緑美しいので紅葉もきれいなのでは。少し長いコースがあるきたいです。



「長島愛生園史跡めぐりウォーキング」参加者で記念撮影



新良田教室跡にて



～今後の企画案内～

◆報道カメラマンとハンセン病—35年の映像から考える— (弁護士会主催)

平成28年12月3日(土)午後1時半～

岡山国際交流センター8階イベントホール

★RSKの宮崎賢カメラマンが長年撮影した映像を鑑賞し、ハンセン病療養所を取材し続けた経験をご講演いただきます。

◆世界遺産登録に向けたシンポ&コンサート(ゆいの会主催)

平成29年1月21日(土)午後2時～

西川アイプラザ5階ホール

★人権教育の場としてハンセン病療養所を残すためにはどのようにすればよいのかを考えます。
沢知恵さんのコンサートも。

◆第13回ハンセン病市民学会総会・交流集会 in 香川・岡山 (ハンセン病市民学会主催)

平成29年5月19日(金)

シンポジウム・懇親会(大島青松園)

5月20日(土)

総会・全体集会(岡山市民会館)

レセプション(岡山市内)

5月21日(日)

分科会・フィールドワーク

(長島愛生園・邑久光明園)

★香川・岡山で2度目の開催となります。

全国から多数の方が集います。

➡いずれのイベントも、詳細はメーリングリスト等でご案内します。



田村さんの「歴史館だより」

みなさま、暑い日が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。長島愛生園には今年も多くの見学者が訪れてくださっています。ご対応に感謝しております。

歴史館見学と歴史回廊見学(園内見学)を行っていますが、酷暑の園内見学は熱中症の危険性もあります。そこで、この8月から収容桟橋、監房前、目白寮跡、納骨堂に日差しよけのテントを設置しました。少しでも見学者(ボランティアの方も)の負担が軽くなればと思っています。また、来年5月にはハンセン病市民学会が岡山・香川で開催されます。これに合わせ、歴史館でも企画展示を考えております。詳細につきましてはまた改めてご連絡させていただきます。

今から秋にかけて、たくさんの方がご来館されます。今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

(長島愛生園歴史館 学芸員 田村朋久)

～年会費納入のお願い～

ゆいの会の活動は、会員からの年会費(年間2,000円)と、協力者の方からの寄付金によって支えられています。

<振込先>

◆ゆうちょ銀行からの振込は

記号 15490/番号 33536171

◆他の金融機関からの振込は

金融機関コード

9900/店番 548

預金種目 普通

店名 五四八(ゴヨンハチ)店

口座番号 3353617

※振込手数料は各自ご負担下さい。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。

後編 記集

相模原の障がい者施設で起こった痛ましい殺傷事件。加害者の背景には障がい者の命や尊厳をないがしろにする優生思想があります。かつてハンセン病療養所でも優生保護法を根拠に断種・墮胎が行われていました。ナチスがユダヤ人と共に障がい者を大量に虐殺した思想と同じ考えです。こうした誤った優生思想が、多数の医師や国民に支持されていたことを忘れてはなりません。最近、中公新書「ヒトラーに抵抗した人々」(対馬達雄著)を読みました。ナチズムが人権を蹂躪したあの苛酷な時代に、実は様々な抵抗をした人々がいたことを描いた名著です。残念なことに抵抗は失敗に終わり、抵抗者の多くは処刑されました。教育者ライヒヴァインが処刑前に子どもに残した遺書は感動的です。しかし、このような抵抗の思想こそが、ナチス崩壊後の新生ドイツを築く原動力となったのです。今の日本にこそ、必要な思想だと痛感しました。是非、ご一読ください。(編集長 則 武 透)